



希望の鐘

2023・9・30 発行 文責：菅野 弘尊

「嬉しさいっぱい」

校長 菅野 弘尊

2学期開始早々に北海道中が見舞われた記録的な暑さを乗り越えた後は、一気に肌寒くなり秋の訪れを実感する日が続きます。子どもは風の子と言いますが、厚着をし出した先生方を尻目に、半袖短パンで寒がる様子さえ見せない子もいるなど、子どもらしさ・良さを感じています。

さて、学校ではコロナ禍が一定の落ち着きを見せ始めたことに伴い、校外からの参観者受け入れを再開しています。9月21・22日の両日には本校を会場にして、全道の聾学校から教職員が集まる研究大会を4年ぶりに参集で行うことができました。この2日間、保護者の皆様に午前授業への対応等で御協力いただきましたおかげで、大変有意義な会にすることができました。

参加された他校の先生方からは、「子どもたちがとても元気ですね。」とか「先生方が子どもの気持ちと様子に沿ってやりとりしているのが素敵でした。」などの感想をいただきました。大会に参加して良かったという声も多く挙がっています。私自身が授業をしたわけではありませんが、「旭川聾学校の子もたちや先生方のことが、他の学校の人にはどのように映るのだろう。」と実はドキドキしていましたので、ほっとしながら嬉しさで一杯になっています。子どもたちはたくさんの先生方に見られることで緊張したり、頑張っているところをアピールしようとしていたりしていました。集中できない程の大人数や回数では困りますが、その「見られる」機会があることで子どもたちの良さが発揮され、私たち職員も再認識できることにつながっていると感じます。

また先日、交流を行っている中学校の文化祭を見せていただく機会に恵まれました。中学部の生徒も先方の中学生と一緒にステージに上がり、手話歌を披露しました。私はいちばん後ろから見ていたのですが、歌の途中で会場の方たちから拍手があがった場面で、私は「はっ」として驚きと嬉しさで一杯になりました。前方にいた中学生数人が、手のひらを相手に向けてひらひらと動かす、ろう者の方への拍手をしてくれていたからです。ずっと手が伸びていたのを見て、「拍手の仕方を知っているんだ。凄いな」と驚き、そしてあまりに自然で素敵だったのでとても嬉しく感じました。

学校では毎日いろいろな事が起きます。忙しいこともあれば、子どもたちや先生方たちにとって努力が必要になることもあります。世間では「ブラックな職場」と言われて久しいですが、学校ならではの嬉しさと楽しさ、醍醐味をたっぷり味わっています。



今月は、交流活動特集です。各学部の交流活動や、北海道聾学校スポーツ交歓会の様子についてお知らせします。

「天使幼稚園との交流」

幼稚部 前田 かずさ

9月14日、天使幼稚園との交流がありました。今回は、お家の人に交流の様子を見に来てもらったので、子どもたちはとても嬉しそうでした。年少組は小麦粘土遊び、年中組は縁日遊び、年長組は小グループ毎の遊びを楽しみました。天使幼稚園の友達に声を掛けるときに少し緊張することもありましたが、楽しい交流を通して益々仲良くなり、お別れするときは寂しそうでした。次回の交流が楽しみです！



「北星中学校との手話歌発表」

中学部 福士 文也

9月20日、北星中学校の文化祭に参加し、北星中学校の生徒会と合同で手話歌（アンジェラ・アキさんの「手紙」）を発表してきました。

北星中学校の文化祭に参加するのは、なんと4年ぶりとなります。そのため、初めて経験するステージ発表では、観客の多さに緊張する様子も見られましたが、息の合った発表ができました。

発表後には、大きな拍手が湧き起こっており、7月の交流で一緒に練習した成果を、多くの人に届けることができました。



「向陵小学校とのクラブ交流」

小学部 濱田 楓

9月14日、向陵小学校とのクラブ交流を行いました。3年生は、来年度に向けてのクラブ見学をしました。4年生から6年生は、所属している工作クラブでペーパークラフトに挑戦しました。細かい作業に苦戦しながらも、楽しそうに活動していました。初めて交流した時は、緊張でドキドキでしたが、今では自分から向陵小学校の友達に話しかけたり、作品をお互いに見合ったり等の様子も見られるようになりました。

4月から始まった交流も、残りがあと少しとなりましたが、次は何を作るのか楽しみです。



「楽しく交流できました！」

小学部 中井 智子

今年度も北海道聾学校スポーツ交歓会はオンラインで行われました。開会式に出ている児童生徒の中には緊張しているお子さんもいましたが、会場校である帯広聾学校の企画したクイズを解くたび、笑顔が見られるようになりました。学年ごとの交流では、事前に準備した質問を出し合って他校の児童生徒から返ってきた回答にうなずいたり、声を上げたりしていました。

来年度は本校が当番校となります。他校の児童生徒が楽しめることができる企画を旭聾っ子が練り上げられることを期待しています。

